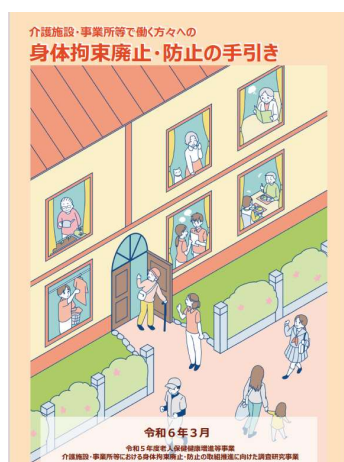


身体拘束について

小田原市 高齢介護課 地域包括支援係
内田 健人

「身体拘束ゼロへの手引き」見直し



高齢者の尊厳を損なう不当な身体拘束は、施設だけでなく、当該高齢者の生活する在宅においても確認されている現状を踏まえ、高齢者に対する不当な身体拘束を廃止・防止するべく、介護施設に加えて、在宅における介護事業所と家族等も対象とし、「身体拘束ゼロへの手引きを」を見直しました。

※身体拘束廃止・防止の在り方については、「身体拘束ゼロへの手引き」もあわせてご活用ください。

身体拘束とは

本人の行動の自由を制限すること

身体拘束廃止・防止の対象となる具体的な行為（例）

- ❶ 一人歩きしないように、車いすやいす、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
- ❷ 転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
- ❸ 自分で降りられないように、ベッドを綱(サイドレール)で囲む。
- ❹ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひも等で縛る。
- ❺ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手装等をつける。
- ❻ 車いすやいすからずり落ちたり、立ち上がったりにしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。
- ❼ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。
- ❽ 脱衣やオムツはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。
- ❾ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッド等に体幹や四肢をひも等で縛る。
- ❿ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。
- ⓫ 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。

身体拘束廃止・防止に向けた4つの方針

①組織一丸となった取り組みの重要性

⇒組織のトップが決意し、施設や事業者が一丸となって取り組む

②身体拘束を必要としないケアの実現

⇒まず、身体拘束を必要としないケアの実現をめざす

③本人・家族・施設や事業所等での共通意識の醸成

⇒みんなで議論し、共通の意識をもつ

④常に代替的な方法を考えることの重要性

⇒常に代替的な方法を考え、身体拘束を必要とするケースは極めて限定的に

身体拘束を必要としないための3つの原則

①身体拘束を必要とする要因を探り、その要因を改善する

②5つの基本的ケアを徹底する

※起きる、食べる、排せつする、清潔にする、活動する

③身体拘束廃止・防止をきっかけに「より良いケア」の実現を

在宅生活において身体拘束を行わないためのポイント

①関係者間で協議すること

②家族等に対する支援を行うこと

緊急やむを得ない場合の三つの要件

切迫性・一時性・非代替性

「緊急やむを得ない場合」の適正な手続きを経ていない
身体的拘束等は、原則として高齢者虐待に該当する

本人の尊厳を保持した生活を支えるケアを目指して

小田原市 高齢介護課 地域包括支援係
までご相談ください